

東邦大学医療センター大森病院臨床研修プログラム

大森・選択専攻科目

東洋医学科（4週以上）

1 研修プログラムの目的と特徴

日本の伝統医学である東洋医学は、科を横断し“一人を診る”という視点、現代医学にない学問体系を供えており、今後患者への個別化、幅広い選択肢の提供という点で、必要不可欠な基本的医療となっていくと考えられる。

また五感に基づく東洋医学の診察スタイルは、現代医学と異なった視点で情報を収集するために、“診断に役に立たない”ように思われた内容も東洋医学的診断に役立つことがある。医師と患者のコミュニケーションを柔軟に円滑にしていき、医師患者関係を良好にするために役立つ体系である。

東洋医学の基本的な考え方を学ぶことによって診断・治療の幅を広げ、多様な患者にとって最適な医療を提供することが目的である。

2 プログラム管理運営体制

東洋医学科スタッフ会議にて、本プログラムの管理・運営を検討する。

プログラムの内容や運営に問題が生じたときには、会議の上で修正変更を行い、スタッフ会議で承認を得る。

3 教育プログラム

3-1 研修期間と研修医配置予定

選択専攻での研修期間は4週以上である。

東邦大学医療センター大森病院東洋医学科外来に配置される。

3-2 一般目標（GIO）

- 1) 臨床医として必要な東洋医学の基本的知識、診断技術、診療の基本的姿勢や態度を修得する。
- 2) 様々な疾患に接する事を通して、患者を全人格的に把握し、その苦痛や希望を理解する。
- 3) 東洋医学基礎理論を踏まえて具体的疾患の病態把握ができる。

3-3-1 行動目標（SBOs）

- 1) 漢方、鍼灸を外来陪席通じて、東洋医学の診断治療過程に慣れる。
初診の見方に慣れた後に、予診を出来るだけ経験する。
- 2) 東洋医学的理論・診断・治療法の基本を理解する
- 3) 臨床各科目における東洋医学の適応疾患、具体的な漢方薬の薬理を理解することができる。
基本20の大まかな適応を知る

3-3-2-A 経験すべき診察法・検査・手技

- 1) 東洋医学的問診方法を行う事ができる。
- 2) 舌診・腹診・脈診などを行うことができる。特に前二者を理解する。
- 3) 針灸治療について理解し、重要な経穴を取穴できる。また鍼と灸を行うことができる。

3-3-2-B 経験すべき症状、病態、疾患

東洋医学基礎理論を踏まえて、下記に該当する臨床各科目に対する東洋医学の適応、病態把握と禁忌、具体的漢方薬の薬効、副作用が理解できる。

1. 内科各科（循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌代謝）
2. 小児科
3. 産婦人科
4. 皮膚科
5. 外科分野（一般外科、脳外科）
6. 加齢医学
7. 腫瘍学
8. 心身医学
9. その他（上記ですべては網羅できないが、必要に応じて、内容を付加する。）

基礎疾患は多岐にわたるため、全てを網羅できないが、研修状況に応じて出来る限り広く体験する。

3-3-2-C 特定医療現場の経験

外来においても幅広い患者層があり、予防医療（東洋医学的な食事・運動・休養・飲酒指導とストレスマネジメント）、地域医療（在宅医療との連携）と周産・小児・成育医療（妊婦、褥婦、発達障害児）それぞれへの接点があり、東洋医学からの役割を学ぶことができる。

3-4-1 学習方略（LS）

- 1) 病棟業務
 - ・病棟往診（診察・漢方薬の処方、鍼灸治療）
- 2) 外来業務
 - ・外来陪席（診察、臨床推論：漢方、鍼灸）
- 3) 各種検査
 - ・鑑別のために検査をオーダーするが実際の手技は当該科での研修となる。
- 4) カンファレンス・勉強会
 - ・症例検討カンファレンス（毎週月曜日）
初診の症例提示、出席者からの診断、治療に至った過程に対する討議
難治症例、安全管理を要する症例の提示、周知、討議
 - ・煎じ勉強会（隔月、月一回 月曜日）希望者のみ
本格的な漢方の生薬調合を行って治療している症例の検討会を他施設共同で行う。

3-4-2 週間スケジュール

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
9:00~	外来陪席 一般、女性	外来陪席 一般、小児 科、耳鼻科	外来陪席 一般、消化 器	外来陪席 一般、産婦 人科、睡眠	外来陪席 一般	外来陪席 一般、循環 器
14:00~	外来陪席 一般	外来陪席 一般	外来陪席 一般	外来陪席 一般	外来陪席 一般	
	症例検討カ ンファレン ス					

3-5 評価 (EV)

一般臨床医に必要な東洋医学の診察能力・漢方方剤運用能力が習得されたかを基準として評価する。

3-6-1 指導体制

本プログラムの最終的な指導責任は、東邦大学医療センター大森病院東洋医学科の指導責任者にある。研修医は外来に配属され、外来担当医の下で指導を受ける。カンファレンス・研究会・症例検討会参加時には指導責任者より指導を受ける。鍼灸の指導は当科鍼灸師より行う。

3-6-2 臨床研修指導医

臨床研修指導医責任者	田中 耕一郎
臨床研修指導医	奈良 和彦
臨床研修指導医	千葉 浩輝

3-6-3 協力施設

特になし